

1 八幡ジャンクション工事

新名神高速道路と第二京阪道路とが接続する八幡ジャンクション工事では、盛土造成や橋梁工事を行っています。橋脚、橋台は概ね完成し、現在、上部工の架設を行っています。



上部工は、コンクリート桁の施工が概ね完了し、国道1号の夜間通行止めをしながら、鋼桁の架設工事を進めています。また、架設完了箇所の床版工事も順次進めています。



2 京田辺高架橋工事

木津川橋から八幡ジャンクション(仮称)へとつながる京田辺高架橋(全長約1590m)を建設しています。橋台、橋脚は全105基が完成し、高架下整備及び上部工を行っています。



上部工は、西側を大型移動支保工、東側では固定支保工によるコンクリート桁の施工を行っています。約8割の架設を完了し、壁高欄の施工も順次進めています。

3 木津川橋工事

木津川を渡る木津川橋の建設をしています。河川内の工事は毎年、非出水期となる10月中旬から翌6月中旬の間で実施しています。



10月16日から、第四期目の河川内工事に着手しています。今期は主に河川内の橋梁架設を中心に工事を行います。

4 城陽ジャンクション工事

新名神高速道路と京奈道路とが接続する城陽ジャンクション工事では、盛土造成や橋梁工事を行っています。橋梁下部工は概ね完成し、上部工は、木津川側



からコンクリート桁の施工を行っており、約5割の架設が完了しています。また、京奈道路との交差点付近では、鋼桁の架設を行っています。



新名神京都事務所担当区間 京都府域 17.7 Km

- 城陽 JCT・IC (仮称) ~ 八幡 JCT・IC (仮称) (平成28年度完成目標)
- 大津 JCT (仮称) ~ 城陽 JCT・IC (仮称)
- 八幡 JCT・IC (仮称) ~ 高槻第一 JCT (仮称)

『高速道路ができるまで...京田辺高架橋(仮称)編』

新名神高速道路の建設現場では様々な工法を用いて橋梁の架設を行っています。その中で今回は京田辺高架橋(仮称)の架設工法について紹介します。京田辺高架橋(仮称)は延長1590.1m 橋脚・橋台全105基のコンクリート橋です。地盤等の状況に合わせて、3つの工法で架設を行っています。



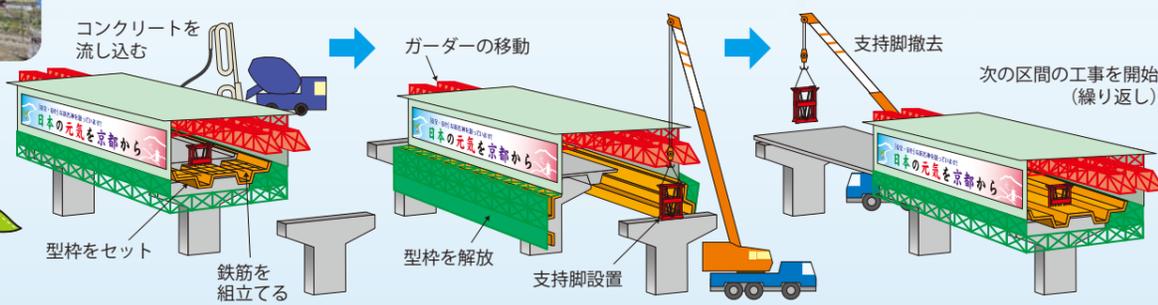
① 固定支保工による架設

橋桁の形をつくる型枠を足場で地面から支える方法です。型枠を橋脚上にセットして、鉄筋を組立て、コンクリートを流し込んで、現地で橋梁をつくります。



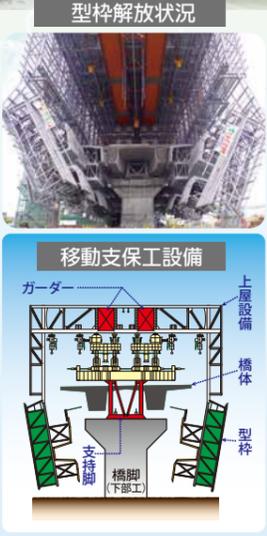
② 移動支保工による架設

橋桁の形をつくる型枠を、橋脚上に設置したガーダーから吊り下げる方法です。型枠をセットした後は、固定支保工と同じように、鉄筋を組立て、コンクリートを流し込んで現地でつくります。型枠を解放し、移動することで繰り返し工事することができるのが特徴です。



③ 門型クレーンによる架設

工場で製作した橋桁をトレーラで現地に運び、門型クレーンで吊上げ、並べて架設する方法です。



※本誌における新名神のJCT(ジャンクション)IC(インターチェンジ)構造物の名称はすべて仮称です。